

想くともさるる由あるもいへる世は神鷹とりひく
逸物の鷹はさうもさげばその事う唯神の贄鷹の事と
ともさるるべし後京極良経公三百首の中は萍はさの毛あり
とひひく柿の毛とを神のあゝさる此のま塙本は柿の
もさりと書しハ毛とありあゝさるるもあゝのや想く鷹はさ
を神へ御贄はさるる口念の方を上めく須とあにおく
座し又神馬鷹あど云りもさるるき故実とも鷹の書
しあゝさるる

御狩場は鷹の尾は名のかつゝ人ともあまげしきみあゝさるる
是はあゝさるるの尾とさるる上尾の次乃下は在と古語は云るが